

## 平成23年度第1回千葉市史編さん会議議事録

1 日 時：平成23年5月24日（火） 午後1時30分～3時20分

2 場 所：郷土博物館 講座室

3 出席者：（委員）

吉田会長、野村副会長、今井委員、白井委員、本郷委員  
（千葉市史編集委員会代表）三浦委員長  
（事務局）

生涯学習振興課文化財保護室石橋主査

湯浅郷土博物館館長、加藤副館長、若菜学芸係長、

築瀬副主査、市史非常勤職員笹川、非常勤嘱託職員大関（記録係）

### 4 議 題

（1）平成23年度事業予定（案）について

（2）今後の事業予定（案）について

（3）その他

### 5 議事の概要

（1）平成23年度事業予定（案）について

平成23年度に予定されている事業について、史料調査・整理事業（『史料編  
近現代』関係調査を含む）、市史などの刊行事業（『千葉いまむかし』25号・  
ニューズレター）、編さん普及事業（千葉市史研究講座・古文書講座・企画展）、  
市史研究事業（市史研究会など）、市史協力員（ボランティア）の活動、その他  
の6つの項目に分けて説明し、承認された。

（2）今後の事業予定（案）について

来年度予定されている事業（研究講座・『千葉いまむかし』26号）及び今後の刊  
行物（『千葉市史 史料編 近現代』・『歴史読本』・『千葉市史料』）について説  
明、承認された。

（3）その他

### 6 会議経過

#### 〔開会〕

午後1時30分、委員6名中5名着席。安田委員は欠席。

司会（加藤副館長）より、資料確認。続いて湯浅館長より職員の紹介。その後司会よ  
り設置条例第5条第2項の規定により、この会議の成立が告げられ開会。

文化財保護室石橋主査の挨拶、吉田会長の挨拶に続いて、会長が議長となり議事に入  
った。

## 議題1 平成23年度事業予定（案）について

平成23年度に予定されている事業について、上記6つの項目に分けて若菜係長より説明。

### <質疑応答>

吉田会長：多岐にわたるが、順に議論したい。まず1の史料調査収集・整理事業についてはどうか。

野村委員：ここ3～4年見ていると、ほとんど寄贈された資料の整理になっている。「こういった史料が欲しい」といった資料収集のための方針が必要なのではないか。市民の方から一方的に資料が集まるのではなく、ニューズレターなどで市民に呼びかけるなど、こちらから積極的に働きかけることはできないのか。市史編集委員会からの資料収集に関する要望があるのかわからないが、今いるスタッフでは正直無理なのだろうが、今後打ち出した方がよい。

事務局（築瀬）：ニューズレターでは、既にそうした記事を載せている。また、講座の時にも呼びかけるようにしている。今後は市政だよりも用いて、市民にアピールすることも必要と担当は考えている。

野村委員：編集委員会と意見交換したことはあるのか。受け身でなく積極的に打って出るというのであれば、資料収集はあまりお金を使わないのだから、今後検討したらどうかということ、指摘しておきたい。

吉田会長：基本的には、刊行する史料編などの編さんプランに応じて探すことはあっても、それを超えて戦略的に収集調査しているわけではないのではないのか。

野村委員：そこまで入ってないということか。

吉田会長：文書館等の機関の役割かもしれないが。

今井委員：これから始めようとしている調査が、近現代の史料編・通史ならば、その史料調査先・集め方は近世ものとは異なるはずである。近代であれば、千葉町の経済を支えていたような商店主などが考えられる。そうした調査は、近代ではどのように見ていくかを、編集の目で立てていただいて、事務局はそれに沿って古くからのお店など調査先を、片っ端から少なくとも一度は訪ねていくべきだろう。そういう作業に全くなっていないようだと感じている。

三浦委員長：それは事務局に人がいないとできない。構成を作れば資料調査は考えられるが、例えば歴代の市長を個別に追って調査したいと思っても、やってもらえる人がいなければ事務局には頼めない。

今井委員：あるかないかを確認するだけでも早急にやるべきだ。近世の史料編を作った時は、市内のもともとの町内会長全員へ史料の有無を確認したい旨の手紙を出した。そこから調査のきっかけをつかんだところもある。やってみないとわからないのではないのか。

三浦委員長：やはり事務局が仕事をしないといけない。

吉田会長：今現在、近現代の関係調査というのは、新聞記事の抽出や議会議事録のPDF化などになると思うが、近現代編の構成等に基づいて戦略的にやっているのか。

三浦委員長：千葉市関連の記事抽出というのは、ボランティアでやっていただいでい

るのだと思う。結局、千葉市関係の新聞記事が欲しいという要求を出したということになっている。この作業は、幸い千葉県史で収集した新聞を使うことが可能であったから、割合効率よくいっていると思う。

吉田会長：他にも今井委員のおっしゃった地域の資料もあるし、企業や法人の資料、学校の資料などもいろいろあると思う。近現代の委員が中心となって組織的に、ローラーをかけるような調査には、現状では着手できていないということか。

三浦委員長：編さん室に既にある目録から近現代関係を見つけ出して、編さん上必要なものをピックアップするようなことしか今のところはできていない。例えば、政治史の資料で市会議員・町会議員・市長・助役などのお宅に行くなど網羅的に調査をしていけば何かあるかもしれない。どちらにしても有無だけは確認した方がよいと思うが、時間と人手、もちろん費用がかかることであると思う。結局、実際に作るとなれば、編集委員が各自これまで蓄積していた情報や知識でしのいでいくしかない。

野村委員：欠落する部分もかなり出るということか。

三浦委員長：そういうことになる。

吉田会長：そういう現状の中で事務局が自ら何か動くというのは不可能に思うが。

野村委員：編集委員会として、どの部分の資料が足りないと思っているかということなどを事務局の方で調査する必要がある。

三浦委員長：構成案を作成してあるのだから、恐らくある程度はわかるはずである。事務局の方が情報量があるはずなのだから、事務局から提示しなければいけない。こちらは途中参加なのだから、それぐらいしないと書くのは不可能である。ただ、それを待っていると期限が来てしまい、そうすると先ほど言ったような個人個人の請負のような形になってしまう。

野村委員：事務局側の能力不足の問題がかなり大きいということだろう。

三浦委員長：今までの近世の史料編を編さんしていた体制のままでは事実上は不可能。近世の史料を収集する中で、近現代のものも情報として集まっているので、その中から選んでいくことになってしまう。

野村委員：始めの会議の時に、以前聞き取り調査というのをやっているといった話があったと思うが、あれは文章になっているのか。

事務局（築瀬）：『千葉いまむかし』に開拓についての聞き取りは載せている。

吉田会長：相当に断片的である。聞き取るべき相手というのは、ある意味無限にいるわけで、開拓や戦争などそれぞれのトピックに応じた方だけでなく、普通の市民の方々もいくらでもいる。こうした方々が何もしないうちにどんどん亡くなってしまうが、これについて市はどう思っているのか。

三浦委員長：例えば民俗部会のようなものがあって、我々とは別に組織的に民俗調査をするということであればできるかもしれない。先ほども言ったが、結局人の問題になる。

野村委員：だいたい毎回同じような報告があるわけだが、ある程度主体的にならないと予算もつかないのではないか。

吉田会長：2、3年前にも言ったが、「江戸と千葉」研究会のようなものを少なくとも

もう一つ、いろいろな方のお話を聞くような研究会を立ち上げてはどうかと思う。市の幹部の方、たしか教育長だったと思うが、この方のお話を聞くことから始める、という話にまでなっていたはずなのだが。

白井委員：民俗の聞き取り調査は、寒川などを今までやっていたと思うのだが、あれはどこの組織でやっていたのか。その辺は市史の近現代とどう関わっているのか。それぞれ別個でやっているのか。仕組みがわからない。

事務局（若菜）：民俗調査は博物館事業として継続的に行っている。成果については、報告書もある。聞き取り調査の記録も残っているので、それを活用することはできると思う。市史も博物館組織の中にいるので、今のところはまだうまく相互に活用できていないが、今後はできるようにしたい。

吉田会長：調査成果は公開しているのか。

事務局（若菜）：表に出しているのは報告書のみであるが、中にいけば調査記録は自由に見られるし、市史で活用することは構わない。今後利用できる形にしていきたいと思う。

白井委員：そういうことを、研究講座などの場で発表したりするとよいのではないか。民俗に対する市民の関心も高いと思うので、調査したことは市民に還元するという形を考えてはいかがか。

吉田会長：多岐にわたり重要な論点が出てきている。先ほど、事務局から話があった「収蔵庫がいっぱいだから一部重要でない資料をどこかに移す予定になっている」ということについてだが、「重要でない」というのはどういう資料を指しているのか。

事務局（若菜）：重要でない、という表現は訂正したい。保存上、収蔵庫で温度湿度管理を徹底しなくても大丈夫と思われる写真などの資料のことを指している。

吉田会長：タフな資料ということか。

事務局（若菜）：写真パネルになっているもので、収蔵庫内に置かなくてもそれほど劣化が進まないと思われるものである。それを表に出し、中に入れなければならないものを優先して入れていく予定である。

吉田会長：どこに移す予定なのか。

事務局（若菜）：空いている部屋があるので、そこへ移動する予定である。

吉田会長：前回の議事録を見ると、マイクロフィルムの保存を考えてPDF化することに対し、フィルムそのものが劣化していくことについてどうするのかという指摘があるが、このマイクロフィルム管理問題について何か進展はあったのか。

事務局（築瀬）：前回の会議後確認した。一番古いものでも特に劣化が進んでいる状態ではないと判断した。すぐに保存対策が必要と思われないため、現状では劣化についての心配は少ないという認識である。

吉田会長：どのぐらいの分量があるのか。

事務局（築瀬）：たしか700本ほどではないかと思う。

吉田会長：リストなどは公開しているのか。

事務局（築瀬）：リストはある。

吉田会長：編さん委員の先生方にそうしたリストを共用していただくことは重要だと

思うが。

事務局（築瀬）：そう思う。

吉田会長：では、議題1の2・3に移りたい。刊行事業と編さん普及事業もあわせて、何かあるか。

野村委員：普及事業に市制施行90周年記念講座とあるが、市制施行90周年に関するセレモニーや記念事業などが予定されているのか。

事務局（若菜）：特にセレモニーなどはない。

野村委員：例えば市民を集めて市長が挨拶する式典や記念展など、「市として」やる記念事業は何か予定されているのか。

事務局（湯浅）：現在のところ大きな事業については、こちらでは認識していない。市民の日もある。市の行事等実施する場合は、「90周年記念」という冠をつけ、市民にPRすることにはなっている。

野村委員：郷土館ではやらないのか。普及事業としてはいい機会だと思うが。

事務局（若菜）：90周年記念ということでは計画していない。

本郷委員：十年後は百周年なのだから、その時に近現代編を完成させるとか、百年という大きな区切りを見越したアクションがあってもいいのではないか。

野村委員：そうしたきっかけを利用しないと、市民がなかなか関心を持たない。

白井委員：90周年では市史関係では何も出ないということだが、市制要覧で80周年の時は少し厚めのものを作っていたと思う。今回も、毎年出しているものよりも少し豪華なものを作ってみてはどうか。

野村委員：千葉開府八百五十年の時にも出版した記憶がある。文庫本のようなものだったと思うが。

今井委員：『千葉市図誌』は70周年で出した。

吉田会長：80周年の時は何か出したのか。

白井委員：80周年の時は市勢要覧だけだと思う。かなり歴史や写真が入ったものが出たと記憶している。

野村委員：小中学生の副読本とは違うものか。

白井委員：あれとは別のものである。

事務局（湯浅）：委員の方々より貴重な意見を頂戴したので、今年度の事業としては企画展・特別展などの郷土館内の事業については積極的に90周年の冠をつけて市民へPRしていくつもりである。

野村委員：普及事業の中にある企画展も冠をつけた方がよい。

吉田会長：期間もちょうどよいのだし、そうした方がよい。

今井委員：企画展の図録には予算はついているのか。

吉田会長：前回、研究講座の企画の立て方について議論した。今年度は日程や場所の問題で仕方ないということで了解したことになるが、基本的には編さん会議の場で委員から出る意見を反映させて欲しい、そうした機会を持って欲しいということで、24年度の研究講座については今日話し合えばいいのではないか、前回提案し、その旨検討するとのことだったが、これについては議題2になるのか。

事務局（若菜）：議題2でお願いしたい。

吉田会長：古文書講座や企画展などのPRの仕方についても前回いろいろ意見が出た。これについても検討するとあったが、これについてはどうか。

事務局（築瀬）：古文書講座は、基本的に市政だよりで十分である。企画展については、市政だよりでもなるべく紙面を大きく取ってもらってPRをしたいと考えている。

吉田会長：では、議題1の4から6についてはどうか。

白井委員：ボランティアの登録者21名というのは、古文書と新聞記事入力とそれぞれに何人かずついるのか。

事務局（築瀬）：新聞記事については、専門の方もいる。2名重複しているが、だいたいそれぞれの関心に基づいて分かれて作業していただいている。

白井委員：新聞記事入力のこと、ニューズレターなどで紹介してあげればいいのではないか。やっている方たちの励みにもなるのではないか。

事務局（築瀬）：前回発行したものに記事を掲載している。

吉田会長：「江戸と千葉」研究会について、大関の方から成果と課題などについてコメントはないか。

事務局（大関）：成果についてはまだコメントは控えたいが、課題は、お願いする報告者も含めて内容の幅をもう少し広げたいと思っている。また、近現代まで含めて考えていければいいとは思う。

吉田会長：そうすると「江戸・東京と千葉」になるのか。

事務局（大関）：そうするとわかりづらいので「江戸と千葉」にしたと思っているのだが。たしか会発足当初は、近現代まで含めてやりたいという話だったように記憶している。

吉田会長：こぢんまりとではあるが、毎回十数名から二十名の参加者があって、それなりにやっている。

三浦委員長：これは、毎回二人が報告する形なのか。

吉田会長：今のところそうになっている。

三浦委員長：史料紹介と報告とあるが、これはそれぞれ趣旨が違ってお二人の報告があるということなのか。

吉田会長：本来史料研究ノートといって、一つの史料を紹介しながら、そこからどう論点をピックアップしていくかという報告の仕方、割とコンパクトにやるという趣旨である。出られていて、どんな感想をお持ちか伺いたい。何かもっとうちの方がよい、という意見があれば。

白井委員：新しい史料などに触れる機会となり、すごく刺激になるので、時間が許す限りは参加したいと思う。前回も言ったが、知っていれば参加したい方ももっといると思うので、もっと広報活動をしたらよいのではないかと、思う。

吉田会長：これは市の側から言えば費用が全くかかっていない。若干でも講師料が出せれば、ちょっと著名な方をゲストでお迎えもできるが、現在のような形では難しい。本来はこうした研究活動が一番基礎にあると思うが、それをサポートする事業経費もないという現状で、我々も自腹でやっている。

三浦委員長：この会は場所を借りているだけ、ということか。

吉田会長：完全に自腹で、場所を借りているだけである。

今井委員：本当に基礎になる部分だと思うのだが、それが実際にどこまで周知・認識されているのか、編さん事業全体の中での位置づけを事務局側が本当にわかっているのが問題である。今まで、調査収集が作業の一番基礎になることはわかっているが、研究作業も一緒に共有していくのだということになれば、近現代の編集委員各自の蓄積に頼るだけではなく、こうした研究会を活用すべきである。今、「江戸と千葉」ということで多分に近世的なものになってしまっているが、これは結局事務局がきちんと位置づけしていない結果だと常に感じている。周知の面でも、ボランティアさんたちなどは、聞けばきっと興味を持たれると思うのだが、そういう方の参加が多いとも思われない。近現代の編集委員が参加しているわけでもない。やはり位置づけがしっかりできていない結果だと思う。

三浦委員長：この会は、いわば近世部会の自主的な研究会だと思っていた。

吉田会長：実質的にはそうである。近世の史料編を作っていた時のノウハウや、特に今井委員を中心とした人的資源という大事なストックがあり、この会はそうした人たちが中心となって動いている。

三浦委員長：そうすると特に時代で区分しているわけではなく、近現代も近世もやっ  
ていいということか。場合によっては原始も古代も、ということになるか。

吉田会長：ただあまり流し込まれても困る。最初のイメージはこうした研究会が三つ  
四つあって、毎月最低でも1回、民俗でも近現代でもいいのだが、どこかの研究  
会があり、みんなボランティアで参加し、場所だけはここが提供してくれてとい  
う感じだった。そうした研究会が一つの議論の場になり、そうするとお金がなく  
ても市史編さん事業の一番基礎的な部分は維持でき、火種を絶やさないと  
ことになるのではないかと思っていた。

三浦委員長：それを現在はボランティアでやっているということか。

吉田会長：全く自主的にやっていることを強調したい。でもなかなかよいメンバーが  
集まっていて、かなり可能性を秘めた集団だと思う。

三浦委員長：先ほどの話にも出ていたが、「江戸・東京と千葉」なんてことも面白い  
かと思う。

吉田会長：現状をよく知らないが、編集委員会の近現代史部会は公開の研究会なり勉  
強会なりをやっているのか。やっていないなら、そういうのを年3回でも4回で  
も、こうした一つの研究会の形でやってみたらどうかと思う。

三浦委員長：そう思う。

野村委員：市史の事業の中に入っていたので、ボランティアでやっているとは知らな  
かった。

吉田会長：我々が押しかけて、場所を提供してもらっている。当初は、千葉市がやっ  
ている市内の大学との共同研究事業にノミネートしようということで始めたのだ  
が。他に何かあるか。なければ議題2に移りたい。

## 議題2 今後の事業予定（案）について

来年度予定されている事業案（研究講座・『千葉いまむかし』26号）及び今後の刊行物（『千葉市史 史料編 近現代』・『歴史読本』・『千葉市史料』）案・予算の現状・刊行プラン（歴史読本→史料編近現代の順で予算要求すること）などについて若菜係長より説明。

### <質疑応答>

野村委員：事業予定についても目新しいことは全くなく、逆に『歴史読本』など後退しているようだ。先ほど百周年の話が出たが、せめて百周年には『歴史読本』を作れるようにしたらいいのではと思う。編さん会議としてももう少し市史編さん事業に対して市及び市民が関心を持つように、できれば今年度の最後にでもそうした文章をまとめるといいかと思う。

吉田会長：市制百周年に向けての事業の提案、のようなものか。

本郷委員：「緊急性がない」とよく言われるという話だったが、特に近世から近現代については常に緊急で、どんどん失われてしまう危険性がある。その点を市の側にわかっていただきたい。今回の震災でもそうだが、災害があると史料なり文化財なりは失われてしまう。できるだけ記録することが必要であることも一緒にアピールして欲しい。「緊急性がない」と言われて引き下がるのではなく、常に緊急性はあるのだと言っていくべきだと思う。

吉田会長：来年度からの長期計画というのは、どういう進行になっているのか。百周年の提案というものを仮にアピールする場合、具体的には来年度からの市の長期計画に反映させてもらえるかどうかの一つのポイントかと思うが。

事務局（湯浅）：今回来年度から三年度計画で新計画を案として提出することを考えている。市史編さん事業としては、三か年計画（24～26年度）の中で『歴史読本』については刊行したいという基本的な考えで、案に載せていきたいと考えている。その次はまた三年度計画と聞いている。そうした区切りの中で市としては新計画を立ち上げて進めていきたいと考えている。

野村委員：そういう計画にのらないと、なかなか実現は難しい。市の財政が厳しい状況で、震災なども考えると、こうした緊急性のないものはなかなか予算がつきにくい。是非とも長期でも短期でも計画に載せていただく努力をしていただきたい。

吉田会長：この三か年計画に市史編さん事業としてどういうことを盛り込んで欲しいかという市史編さん事業の計画案というようなことは、この編さん会議の場では議論の対象にならないのか。

事務局（湯浅）：事業自体については、今頂戴した委員の先生方の意見を受けて今後検討していくことも可能ではあるが、先ほど申し上げたような方針で行きたい。そのうえで委員の先生方からご意見をいただきたい。

吉田会長：我々がこの場で話している内容をどういった形で事務局の方で文章化されるのか、そのプロセスが大事だと思う。次の会議の時には三か年計画の策定に既に入っている時期だろうと思うので、本来は議題2に入っていない内容ではないか。



事務局（湯浅）：24年度予算から新計画に基づいた関係も入ってくる。

野村委員：策定は夏ぐらいではないか。そこにある程度入らなければいけない。編さん会議としては5年以上前から提言はしているわけだから、議事録などもあると思うので、がんばって予算化あるいは別格化をお願いしたい。

事務局（湯浅）：編さん会議からは、既に平成17年3月に「市史編さん事業の今後のあり方について」という提言をいただいております、それは非常に重たく受け止めている。その中に各種事業が入っているが、そのうち『歴史読本』を新たな計画に載せて進めていきたいと考えている。それに基づき、私どもの方では今後策定があるので、その中で最低新計画案には載せてもらい、そのうえで予算もつけてもらえるように具体的に詰めていきたいと考えている。

今井委員：三か年計画からはずれることはないのか。

事務局（湯浅）：市史編さん事業が計画にのらないことがないようにしたいと思う。

吉田会長：『歴史読本』の具体的な内容については、いろいろ問題があるという議論をしてきたと思う。事務局の案を、我々が規定のものとして了解しているわけではないことを念頭に置いていただきたい。この『歴史読本』自体の話とは少々ずれるが、ある計画についてのご案内をしたい。『千葉いまむかし』に紙上古文書講座というシリーズが9回連載されている。これをあくまでベースとして編集し、また何本か周辺の人たちが書いて、100頁くらいの冊子を刊行できないか、と考えている。これは本来市史編さん事業の過程で作成された原稿でもあり、成果物として一般市民を対象とした読み物という形にしたい。できれば今年度内に何らかの形で冊子化し、次の編さん会議の時にはこうしたものができそうだという報告ができるのではないかと考えている。ただ、市史の予算で刊行することは恐らく難しいので、費用の問題が出てくる。地元の出版社が乗り気になってくれて、出版してくれるのがベストと考えているが、その場合も何部かは買い取る必要があると思う。東京の出版社は難しいと思う。もう一つの方法としては、カンパを募るか、あるいはいろいろな研究助成的なもの、例えば科学研究費の成果の一部というような感じで出すなどの完全自費出版が考えられる。試しにそういうことをやってみたいのだが、ただ勝手にはできないので、市史編さん事業の一環として位置づけて組み込んでよいかどうか、皆さんや事務局にご意見を伺いたい。今の段階で70～80頁分はあると思う。もちろん順番や量を考えて編集は必要だし、あとは千葉大の後藤先生や今井委員、市史編さん担当前任者の芦田さん、あと僕も含めて何人かが加えて書いて、少し大判の冊子が出せないかと考えている。とにかく問題なのはこうしたことをやっていいのかということである。

野村委員：版下はできているということか。

吉田会長：今ご覧になっているのは、『いまむかし』のコピーである。

本郷委員：古文書自体はここが持っている、あるいは寄託になっているものか。

吉田会長：ほとんどそうであるはず。その写真と釈文を載せて、本来は読み下しをつけたりする必要があると思うが。あとは、こういうのを中世文書で読む千葉とか、発掘現場から見る千葉とか、民俗の千葉とか、半ばシリーズ化できないかと考えている。

本郷委員：セットで小さい企画展などもできそうだ。

吉田会長：誰が出版主体になるのか、という表記の仕方の問題もある。「江戸と千葉」研究会が一番いいように思うが。具体的に何かネックになることがあれば指摘して欲しい。他には何かあるか。事務局の方はどうか。なければ議題3に移る。

### 議題3 その他

<質疑応答>

吉田会長：議題3はその他、とあるが、何かあるか。特に何もなければ、以上をもって、議事を終了する。

### 〔閉会〕

加藤副館長の進行により平成23年度第1回千葉市史編さん会議を終了。

作成 千葉市史編さん会議事務局  
(千葉市立郷土博物館市史編さん担当)  
TEL 043-222-8231